

「日本独自の文芸様式：異世界もの」（模擬授業：武蔵野高等学校、令和8年5月25日）

武蔵野高等学校3年生17名に対し行った。ライトノベルの定義は定まっていないものの出版形態としてライトノベルが存在していることを確認した。日本でのファンタジーとして異世界ものも1970年代に発表されているものの、一つのジャンルとして「異世界もの」、特に「異世界転生もの」はここ10数年で定着した。2024年にはisekaiとして英語にも登録された。重要なのは転移、転生であるが、英語では受動態で表現されていることに大きな意味がある。また、魔王討伐のために勇者を召喚する、あるいは魔王討伐の使命を負った勇者に関するストーリーが主であったものが、スローライフを過ごすなどの生き直しが中心となったストーリーへと変容している。これは書き手が社会人経験を果たし、仕事とプライベートの関係について深く考えるようになったあらわれであったことを明らかにした。